



## 年 頭 所 感

中国四国産業保安監督部四国支部長 市原 秋男

新年明けましておめでとうございます。旧年中は産業保安行政に対しまして、ご支援・ご理解を賜り、厚く御礼申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

さて、去年は流行語大賞にも選ばれました「政権交代」が9月にあるなど、変革を求められた年であったのではと思われます。また、景気の面では、年初は一昨年のリーマン・ショックやサブプライムローンの影響を引きずり「急速に悪化している」状況でありましたが、一昨年度や昨年度の経済対策を盛り込んだ補正予算等もあり、年末には「持ち直し」の状況に改善されてきてはおります。

しかしながら、こちらの方は変革（好転）とまではいかず、11月には株安、円高が進み、政府は「緩やかなデフレ状況にある」とデフレ認定をせざるを得ない状況でした。

今年こそは厳しい雇用情勢が改善し、景気が好転することを期待しています。

一方、産業保安の面で見えますと、昨年他管内で液化石油ガスによる給湯用ボイラーでの一酸化炭素中毒事故が発生しました。修学旅行中の多くの小学生を巻き込んだ事故であったため、社会に与えた影響は計り知れないものでありました。

当支部管内では、4月に化学工場からの塩素ガス漏出事故が発生しました。工場の従業員だけでなく周辺住民にも被害が及ぶ事故であったため、地域への衝撃は大きなものでありました。

また、電気の関係では事業者による申請手続漏れや調査期限の超過、工事計画の届出不備などの事案が続きました。

いずれも地域住民の安全・安心の確保の面から、また事業者のコンプライアンスの面からも事業者の責任は大きく、再発防止に万全を期すよう指導を行っております。

鉱山の関係では、今年は鉱山保安法が平成16年に改正施行されてから5年を経過することもあり、見直しの作業が行われます。また、リスクマネジメントシステムの定着化に向けた取り組みを進めてまいります。

当支部としては、今年も関係業界の皆様のご賛同とご協力を賜りつつ、引き続き「国民の安全の確保と環境の保全」を目指して、地域住民の安全・安心のために貢献して参りたいと思っております。

今年一年、皆様の御健勝と御多幸と御安全を心から祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。